

稲雲

第36号

発行
OB会事務局

目次

- 其の一 50周年記念事業
- 其の二 二〇一一年OB総会報告
- 其の三 荻野合宿
- 其の四 浮田善夫氏のご逝去のお知らせと偲ぶ会の報告
- 其の五 50周年レガッタを契機に再び始まる漕歴
- 其の六 リレー随想より
- 其の七 二〇一二年レース結果
- 其の八 全日本インカレ現役の活躍
- 其の九 新人紹介
- 其の十 二〇一二年OB総会案内

〓〓50周年記念事業〓〓

平成二十三年十一月三日、早大理工漕艇部創部50周年記念行事が開催された。午前中に戸田ボートコースで記念レガッタ、午後からはリーガロイヤルホテル東京（早稲田）で総会・祝賀会が開催された。

一、記念レガッタ

早大理工漕艇部創部五十周年記念行事の目玉として企画された「記念レガッタ」は、延べ150名を超える参加者のもと、シングルスカル、ダブルスカル、ナツクル、年代別エイト、招待エイトのレースが行われ予想以上の大盛況であった。

二、祝賀会

当初、200名を目標に企画した祝賀会は、OB会員だけでも190名を超え、現役・招待客も含めると230名を超える盛況であった。単なる懇親会ではなく、エルゴ大会、レガッタ表彰式、五十年の歴史を振り返るスライド上映、現役紹介、最後は「都の西北」の大合唱と盛りだくさんの内容で、その後の各年代による二次会も含め大いに盛り上がった。

〓〓荻野合宿の思い出〓〓

山住市郎（S44卒）

理工ボート部に入部して、最初の夏の合宿が荻野でした。その思い出は一生忘れることが出来ない貴重な経験となりました。朝夕の乗艇練習は、往復16キロ程行きは技術練習を主として帰りは並べて競争しながら漕いだものでした。昼は炎天下にランニングと筋力強化トレーニングとバック台。食事は一年生が交代で担当しました。同じ釜の飯を食うともいいますが、仲間意識が高まったのもこの合宿でした。合宿10日間で1日休日がありフィックス艇で遠漕に行ったことも良い思い出です。福島県荻野漕艇場は、

〓〓二〇一一年OB総会報告〓〓

十一月三日に二〇一一年度OB総会が開催された。ここでは収支決算書のみ掲載する。

2011年度 理工ボート部OB会 収支決算書

期間 2010/10/01 - 2011/09/30

作成者: 林操
単位: 円

	予算	実績	差異	備考
I 収入の部				
OB会費および寄附	1,810,000	1,965,000	155,000	会費193万(185名)
家賃	540,000	540,000	0	9月よりマンション賃貸
雑収入	1,000	6,186	5,186	利息、懇親会残金等
当期収入合計	2,351,000	2,511,186	160,186	
II 支出の部				
現役活動補助				
艇庫使用料	463,680	463,680	0	
新人関連補助	200,000	200,000	0	
部室関連	140,000	22,527	△ 117,473	51号館部室改善
部費補助	200,000	361,000	161,000	合宿所更新料、補助
4+先魁2007修理代	0	121,800	121,800	
ビデオカメラ修理代	0	14,757	14,757	
小計	1,003,680	1,183,764	△ 117,473	
マンション関連				
管理費	112,800	112,800	0	
光熱費	0	2,290	2,290	2010/9月分のみ
固定資産税	20,900	21,800	900	
修理保全	0	0	0	
小計	133,700	136,890	3,190	
OB会活動				
50周年記念事業準備	200,000	189,000	△ 11,000	戸田コース使用料
稲雲、総会通知	370,000	249,648	△ 120,352	稲雲No.34&35
催事支援	200,000	64,240	△ 135,760	一部延期
監督コーチの交通費	0	0	0	
会費自動振替費	35,000	33,894	△ 1,106	
通信費	30,000	5,500	△ 24,500	HPサーバーに変更
総会補助	0	73,816	73,816	
役員会委員会諸費	0	9,280	9,280	会場費、資料印刷代
弔慰金	0	25,000	25,000	澤田氏、藤田氏お花代
雑費	10,000	2,992	△ 7,008	振込料
小計	845,000	653,370	△ 214,910	
予備費	368,620	0	△ 368,620	
当期支出合計	2,351,000	1,974,024	△ 697,813	
当期収支差額	0	537,162	537,162	
前期繰越残高	1,863,047	1,863,047		
次期繰越資金残高	1,863,047	2,400,209	537,162	



現在の荻の合宿の様子

〓〓浮田善夫氏のご逝去の お知らせと偲ぶ会の報告〓〓

元理工ボート部監督の浮田善夫さんが、本年三月十八日、七八歳でご永眠されました。

浮田監督は、理工ボート部の創成期に、数々のご指導、ご支援を賜りました。心よりご冥福をお祈りいたします。我々、お世話になった者たちが集まり、「浮田善夫さんを偲ぶ会」が六月一日（月）に東京の丸の内ポールのターで執り行われました。ここで高見会長が以下の弔辞を述べられました。

『ただいま紹介いただいた理工OBの高見です。』

本日は、稲門艇友会・超六会の「浮田善夫さんを偲ぶ会」に理工OBの参加を企画いただき誠に有り難うございました。お陰様で東京近辺の多数の者が、このような楽しい雰囲気なかで「奥様に見守られた永遠の我等が親父・浮田監督」にお別れと感謝の挨拶をさせていただくことができました。

ここにおります柳内他4名、35年体育会ボート部に入学しましたが、新生理工学部、大久保にキャンパス移転とともに実験、実習が重視され、他学部と一緒に練習ができなくなり、理工ボート部として、36年誕生させたが2年間は部の体をなせないままであったと聞いております。

昭和38年高見達大量の一回生が入部。特に「新生早稲田大学理工工学部にふさわしい」との理工工学部側の強い意向もあり実質の誕生となりましたが、いかな柳内達数人の四年生・五年生指導者と一年生部員での構成での部活動「ないないづくし」で見ると見かねて、網中さん、谷古さん、村松教授らの大先輩達が「はらのすわった」浮田親分を翌年の昭和四〇年一月に、送り込んでくれたのです。かたわらに、浮田さんがお兄ちゃんと呼んでいた「山口先輩がおられ、鈴木誠さん、黒河内さん、棚田さん、筏さんの今振り返ってみてもそうそうたる布陣でありました。

丸山さん、嶋田さん他準備していた

だいた方々に、改めて御礼申し上げます。

私の仲人であり、親父であり、人生の師でありました浮田さんに感謝の言葉です。

オーイとかみ、村田は元気にやってくるかー？

近藤は、仁野はどうしてる？

藤川は元気にやっとなるかー

池田はどうしてる？あの大怪我した林は？

お宅に何うと、あの笑顔、はりのある声で、いつも次から次へと聞いてこられました。

私を含め皆の成長をとっても楽しみにしておられ「うんうん。そうか、そりゃよかった、たいしたもんだ」と、ほんとうにうれしそうでした。

今日も存命10人中7人・一番多く来てくれている43年卒の連中にはひとしおでした。

浮田さんがみえた時の新入部員として、私達一団生・42年卒に抑えられ44年卒の40人を超す奔放な個性集団にはなされていたのですが、一途に葛藤しているさまをよくみておられて機会あるごとに「腹の底からの暖かくユーモアたっぷりの楽しい語録」を声にかけてくれたのです。

そして、今日参集してくれている44年、45年、46年になると、次から次へと何の遠慮もなくお宅に伺い飲み食いし、荒尾様の奥様までしょっちゅう動員して対応いただいたとお聞きしておりました。

ボート部関連・大学も含めた対外的なことは勿論ですが、部員一人一人についても

「ボートも学業成績も中途半端と言う酷いやつ」からはじまり、「就職どうしよう」、「卒業前自分を見つめなおしたい」等々、いざ人生の重要な選択に迷ったとき「相談にあがると、実の父親以上に親身になって、聞き、行動してくれました。

に影響しあい、そんな仲間達と大学時代を過ごせたのは私の永遠の財産だと思っています。

e 0008

佐藤肇 (S39年卒)
ボート雑感

大学時代ボート一筋に一生懸命漕いだ記憶がないのでボートについて何か書けと言われても面映ゆいのですが。昭和35年に大学に入った時(たぶん入学試験の発表の時)体育局ボート部の先輩に声をかけられ入部しました。尾久の旭電化の隣にあった艇庫で数カ月も合宿しましたが授業(特に実験)出席の調整が難しく中島田、高橋、柳内君達と理工ボート部を立ち上げました。大学卒業後三井物産に入りましたが何の拍子か会社のボート部で2年間漕ぐ羽目になり三菱商事との対抗戦で体育局のボート部で一緒だった仲間と対戦する羽目になったり何となくボートとのご縁があったようです。

その後NY・Sydney・Johannesburgなど転動しましたがやはり転勤先でも川沿いにRowing Clubがあると何となく気になったものです。それにしても海外ではテニスやゴルフと同じようにRowing Clubが各地にあり白髪のお年寄りがスクールなどを颯爽と漕いでいる姿をみると羨ましく、やはり外国勢が強いのはたんに体力だけでなく長い漕歴を可能にするClub組織の力なのかと思いました。

先般たまたまイタリアローマの南50キロぐらゐに位置するCastle Gandolfoに住む友人宅に一週間ばかり滞在しました。町はAlbano湖という湖に面しているのですがそこが昭和五年のローマオリンピックのボート会場だったそうです。当時入部したての我々の横を颯爽と通り過ぎて行ったローマオリンピックの日本代表、東北大学クルーの雄姿がよみがえりました。

最近運動はもっぱらゴルフだけになってしまいました。がのんびり年寄り同士でナックルでも漕げたらさぞや楽しいだろうと考えております

がそんなチャンスがあったらぜひ声をかけてください。

e 0009

渡辺 紀仁 (S39年卒)

理工ボート初めの始まり

中島田の記事にある通り、意思半ばにして体育局漕艇部を辞めざるを得なかった、中島田・柳内・高橋・佐藤・稲葉の5人が創部を思いつき、部員募集を始めて小生が加わり、昭和三十七年春に6人でスタートする事になった。当時戸塚キャンパスの安部球場(注1)寄りに、理工の教室があり、学校がその中庭に掘立小屋を建てて、小さい乍らその一室を理工ボート部室として借り受け、産声を挙げた。

当時の铸物研究所の仲間が、バーベル造りをしてくれ、トレーニングの助となった。しかし乍ら、艇はなく、隅田川沿いの体育局艇庫や柳内の出身校開成高校から艇を借用して、隅田川でナックルをこぎ始めた。部員は12〜3名であった。

昭和三五〜四拾年頃は戦後高度成長期の真ただ中で、全ての工場から黒煙が吐き出され、隅田川の川面は一面のへどろで覆われ、漕いだ後は艇の底にへどろがびっしり貼りつき、掃除が大変であった。

注1：現図書館のあたりか？

二.じつと我慢その1

1937年秋台風の数日後、中島田・柳内・小生は高橋の車で、早稲田から相模湖まで20号線をひた走り、峠もエンストせずになんと相模湖湖畔に到着してびっくりした。湖面は文字通りおびただしい数の倒木で埋め尽くされていた。それから旧艇庫の辺りにたどりつき、艇庫のおやじ石井さんに、艇の借用を申し入れたところ、第一声は「お前ら、ボート漕げんのか？」ときた。ここはじつと我慢。これが、おやじとの長い付き合いの始まりである。

3.艇なしてレーニン

創部二年目1938年の春に、現OB会長の高見をはじめ、21人が一挙に入部した。当時、艇はおろか文字通

りな一にもなし、ではたと困り、苦肉の策で、船に乗りたぬは足腰を鍛えろ、ということと陸トレだけを始めた。

四.初の自艇ナックルフォア誕生秘話

とはいえ、自艇を持ちたい希望にあふれており、夏休みに部員全員アルバイトで一人八千円づつ供出する事となった。総額二十五万円を確保することが出来た！資金確保の目的をつけて、デルタ造船の谷戸社長に建造を申し入れた。ちなみに、エイトは四十万円、トヨタクラウンと同じ。新艇は、当時荒川にあったデルタ造船所の艇庫に保管させてもらったと思う。

五.本ちゃんよりコーチ招へい

当時の体育局漕艇部村松部長(工業経営教授)のはからいにより黒河内氏を初代コーチとして招へいした。それ以降、後氏等二三人にコーチとして指導を仰いだ。こうして、キチンとした漕法を身に付けた事が、その後の漕艇会での活躍に繋がったことは、謂うまでもない。

六.創部の精神

こうして「漕艇部としての体裁」が整いつつあったが、大きな課題を抱えていた。それは、中島田に替えて、次期監督をだれにするかということであった。部員全員が理工学部の学生である限り、学業をおろそかにして、漕ぐこと・強くなることだけを目標にするものではないが、強い部にしたいたい気持ちも大きかったのも事実である。ボートを漕ぎ学校にも出、しかも強くなるには、底辺を広げることが一番である。

監督候補は二人いた。一人は強くなりた一心で一番の力持ちである。彼は若くして他界された。さて、次期監督は漕ぐ実力もあり、部全体をまとめる力がある者ということで、近藤に白羽の矢が立った。この選択が正しかった事は、しばらくしてから実証されることになった。二代目マネジャーとして、高見が小生の後を継いだ。

「漕ぎたい者は漕げ、学びたいものは学べ」が創部の精神として定着することとなった。

七.じつと我慢その2

こうしてやっと手に入れたナックルフォアであるが、オールの色を巡ってひと悶着あった。荒川で古いナックル艇を借用していた関係で、ほんちゃん(体育局漕艇部)清瀬マネジャーに、新艇の報告に行った。清瀬は開口一番、紛らわしいからオールの早稲田カラーはまかりならんつ。(V.A.)と申し渡された。

ここで喧嘩してはならじとじつと我慢した。しばらく無言の後、我々も同じ早稲田の学生であるので、早稲田カラーをいかにと、すこしおかしんじゃないやありませんか？なんとかなりませんか？と粘った。しばし無言の後、わかった。そのかわりブレードの上方に白線をいれる、ということと、結局白線を一本入れることで決着した。

八.初めての荻野合宿

荻野に合宿所があるらしいがと中島田にいわれて、即列車に飛び乗り、荻野駅前の自転車屋のおやじ(福島県漕艇連盟副会長)に会う。前の週、慶応の学生さんが来たよ！といわれて、即艇借用を申し入れ！艇庫と艇を拝見したあと、合宿所のおばさんを紹介された。寝床は綺麗・清潔とは程遠いものであったが、一度に全員寝られる場所を確保した。野菜・卵の仕入れの事など聞いてトンボガエリした。

合宿には35人が参加した。とにかく毎日三食準備するのはてんでこ舞いであった。毎日のメニューを考えるのは、とてもとても無理と悟り、合宿が決まった後、栄養短大の正門近くで待ち伏せし、二人連れの女生徒をつかまえて二週間のメニュー作成を依頼した。合宿所でメニューを見た中島田が小生の彼女に作らせた、と勘違いしたが残念ながらそうはならなかった。当の中島田は、アツアツの彼女と時々逢引していた、と記憶している。

九.初めての相模湖合宿

相模湖漕艇場のおやじ(場長、寿司屋の主)に会って合宿でのナックル拝借を申し入れ。旧艇庫のナックルを拝見し即借用申し入れ。

その際に、おやじがちよつと頼みがあるんだがといわれた。旧艇庫のナックル

クルフォア25はいを、300メートルはなれた一時置き場に移動してもらいたいとの申し入れをその場で即快諾！初めての合宿の間、全員で300メートルはなれた一時置き場に移動！

3月初めの氷雨の中、大変な重労働であったが、だれも一言の文句もなしに実行してくれた。それ以降、おやじの、顔が良くなったのは謂うまでもない！それ以降、月夜野」という古い旅館を定宿とした。

十.理工ボート部主催初めての理工学部ボートレース(その後理工スポーツ大会になった)

荒川でのレース実施にあたり、ほんちゃん清瀬氏からも借りたが、足りない分はやや上流の物産からならばいか拝借した。隅田川で、初めて我が理工ボート部が、大会を取り仕切った。その翌年は、戸田コースで実施した。こちらの方は、ひやひやものであった。

十一.初めての相模湖レース

①学部長に交渉
理工学部の難波部長に会い、『レースの実施にあたり、各科5人ずつの相模湖合宿を予定している。これは教育の一環である故、全参加者の欠席扱いには御容赦頂きたい！』むねを申し入れその場で快諾を得た。

その足で、相模湖の東京オリンピック・カヌー競技場に向かった(注2)。くだんの石井場長に会い、レース開催を申し入れ即快諾された。カヌーレースのランドマークをそのままとし、ユースホステルを全館十日間借り切った。

注2：東京オリンピックでは、水上競技が3種目実施された。戸田のボートレース、江の島のヨットレース、それに相模湖のカヌーレースである。相模湖ユースホステルはこのカヌーレースのために新設された。レースは、1960年10月20〜22日であった。

②相模湖レース予算

当時の学友会会長から約五十万円程度の予算を分捕った。今の貨幣価値にして五百万円程度であろう。新聞紙にいられた軍資金を懐に、相模湖へとむ

かった。ひやひやものの大金であった。学友会の会長は四年生であるが、こちらは最高学年の五年生である。23分の議論で終わった。明細など彼に伝える義務はと判断し、その足で相模湖に直行。おやじに会って全ての段取りを完了した。予算の一部でオールを新調した。

③相模湖レース戦利品!

戦利品はオール24本で、その後の部運営において大いなる威力を発揮した。レース後とてかくそのまま戸田艇庫に持ち帰った。理工学部長にも誰にも報告した記憶はない。

十二.前白井総長との出会い

『ああ、あの理工ボート部の渡辺さんですか！』と理解が早かった。相模原稲門会で三度ほどお目にかかり、その後体育局漕艇部120周年記念大会で、当部40周年記念大会への出席を依頼し、結果当時の副総長に出席頂いた。体育局の部長・OB会幹事長にもご出席頂いた。

十三.感謝の気持ち

コーチ招へいなどのぞき、ほとんどは単独行動しかも全て即断即決であった。いい悪いを言っている場合ではない。別に変とかなんとか、誰かに相談するとかしないとかでもない。やるべきやなかった。交渉事に裏も表もない。話は単純、すべてぶつつけ本番である。ただそれだけで3年間突っ走った。その後しばらくして世界選手権に出席出来たことは、周知のとおりである。

然しながら、部創立当初、多くの方々に支えられて今日があることを忘れてはならない。前白井総長・松村部長・デルタ造船谷古社長・同山口部長・本部のマネジャー清瀬氏、体育局漕艇部片山部長・同稲門会幹事長・初代コーチ黒河内・二代目コーチ後各氏・当時の理工学部難波部長等々、極めて多くの人々のサポートがあって初めて今日がある事を記憶にとどめ、感謝の意を表して筆を終えたい。

e 0010

初島宏明 (S42年卒)

スポーツと私

今六八歳になってこれまでを振り返り、また今後を思うと、けっして大げさではなく、スポーツは私の人生そのものでした。現在は山スキーに夢中でニセコをベースに、夏には南半球へ雪を求め、冬にはさらなるパウダースノーを探し、ヘリコプタースキーができるロッキーマウンテンにかけたりしています。会社時代も趣味で山登りをし、リゾート関連業務でゴルフ・テニス・ダイビング・スキーに関係し、子会社であるフィットネススクラブの経営もいたしました。ここまで出来たのは学生時代のボート部のおかげであると大変感謝しております。

その理由は小学生まで虚弱児童で、病欠が多く、私としては生き続けるための身体造りが最大のミッションでした。中学から剣道、柔道を習い初めました。本格的には大学でのボート部において身体造りが完成し、怪我もしましたが、さらに精神力がきたえられ、先輩や同僚そして後輩の人間関係で社会性を身に付けることができました。

高校の校是が「開拓・創作」で、自ら作り上げる精神はつちかっていたようですが、理工ボート部の草創期のための貴重な実践経験を積み重ねられたことが大いに役にたちました。今までの与えられた環境ではなく、自分で創り出す行動として、アルバイトでボートを買う資金を調達し、合宿の食事当番で初めて料理に挑戦し、铸物研究所でトレーニング用バーベルを自分たちで製作し、その用具を使って試合を目指して自主的に体力造りをしたことです。

先輩のおおらかな部の運営思想と緻密な関係部門への調整と部員全体の自由ながら部のための行動への結束が、とてもすばらしいものでした。このことは社会に出て新規事業開発や不採算事業の立て直しに大変役立ちました。

さらに重要であったことは、社会へ出てからも付き合ってくれる友の教えが大変な財産になりました。仕事の面で力をいただき感謝しています。

間一人では何の力も出せず、周りが協力し応援してくれることがその人の大きな力になることを思い知らされました。

二年前にある癌にかかりましたが、これまでに創りあげた体力と友人の医者のおかげでほぼ完治の状態になりました。スポーツ(ボート)によって、体力と経験とスクラムが組める友人を得たことは私の宝となりました。歳をとるとさらに我ままになって、相変わらず勝手に申し訳ないですが、これからは身体が動く限り、心ときめくスポーツの探求を続けるつもりです。

(リレー)随想は碧水会のホームページに掲載されたものです)

〆二〇一二年レース結果〆

二〇一二年のレース結果と今後の予定は左の表の通り。十月に行われる新人戦の際には、同期や近くの年代に声をかけて大勢のOBで応援に行きましょう。

※選手それぞれの学年は以下のとおり。

- 四年 高橋、松村、静野、富士
- 三年 村田、木下、伏野、那須
- 二年 真島、高安、阿部、兒玉、田中



インカレレース後に四年生を胴上げ!

開催日	レース	出場クルー(選手名)	結果
3/31~4/1	お花見レガッタ	シングルスカル(木下)	敗復敗退
4/15	早慶レガッタ	舵手付フォア(高橋、村田、伏野、松村、阿部)	優勝
5/5~6	戸田レガッタ	シングルスカル(木下)	準決勝敗退
		シングルスカル(高安)	敗復敗退
		ダブルスカル(静野、兒玉)	敗復敗退
		ダブルスカル(那須、真島)	敗復敗退
5/18~20	全日本軽量級選手権大会	ダブルスカル(静野、兒玉)	敗復敗退
		ダブルスカル(那須、真島)	敗復敗退
7/14~15	東日本選手権大会	ダブルスカル(那須、真島)	Final B 4位
		シングルスカル(伏野)	Final D 5位
		シングルスカル(木下)	Final C 2位
8/23~26	全日本大学選手権大会	舵手付フォア(高橋、富士、村田、松村、静野)	敗復敗退
		ダブルスカル(那須、真島)	敗復敗退
		シングルスカル(木下)	敗復敗退
10/19~21	全日本新人選手権大会		
10/28	東日本新人選手権大会		

〆全日本インカレ現役の活躍〆

林 操 (S45年卒業)

全日本大学選手権(インカレ)に現役サポートのため八月二十三、二十四日(木、金)の理工初戦から戸田に行ってきた。残念ながら全クルーとも二十五日の準決には進めませんでした。少しづつ力を付けて来ています。二日目敗復には選手を含め20名以上の現役が集結していました。

今大会には計7名が出漕。特に、四年生主力の4十は、敗復で中央大学に肉薄しましたが、惜しくもちぎられ準決勝進出を果たす事は出来ませんでした。大いに悔しがり、下級生にその夢を託していました。

もちろん平日にも関わらず、2日間で9名のOB(S39卒柳内、42高見大枝、清水、55武田、H11中村徑、

19木原、S45林)が応援に駆け付けました。ご苦労様でした。もともとつと多くのOBが戸田を訪れ、力一杯の応援をすれば三日目、最終日まで残る事も夢ではありません。今後のレースは、次の通りです。
・9月十三(十六日(木))全日本選手権 木下(3年)が1X予定
・十月十九(二十一日(金))全日本新人選手権(ジュニア)一・二年生
・十月二十八日(日)東日本新人選手権(ジュニア)一・二年生
詳細は追ってメールにてお知らせします。秋の一日、多くの方々の応援を待ちしています。



インカレレース後の集合写真

〆新人紹介〆

今年には八名の新人(男子四名、女子四名)が入部。現在新人戦に向け練習に励んでいる。これからの彼らの活躍に期待しましょう。

男子四名

- ・内藤 菜優 (ないとうまひろ)
- ・早稲田実業学校高等部
- ・早稲田大学文化構想学部文学構想学科

3、報告事項

- A. OB会所有マンションの賃貸状況報告 (小泉)
 - B. 年間スケジュール案(配布)
 - C. 現役活動報告 (現役)
- ★閉会の後、椅懇親会に移ります。

〆OB会事務局からのお知らせ〆

【メールマガジン開始のお知らせ】
電子メールによるメールマガジンを隔月発行で、直近のレース結果等、現役の話題を中心に取り上げていきます。

【OB会費納入のお願い】

OB会の活動は、皆様からOB会費により成り立っています。OB会費未納の方は次の口座に振り込み願います。OB会費は年会費1万円です。
東京三菱「三」銀行 高田馬場支店
店番号 053
口座番号 0542113
早大理工ボート部 OB会
(ソウダイリコウボート部 オウビカイ)

〆二〇一二年OB総会案内〆

平成二十四年十一月三日に早大理工漕艇部OB会総会が開催されます。皆様、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

式次第【案】

- 1、会長挨拶
- 2、議案審議
 - A. 会長改選の件 (高見会長)
 - B. 平成二十四年度活動報告及び二十五年度活動計画承認の件 (各委員長)
 - ①則整備(大枝)、②広報(吉田)、③催事(金谷)、④ビジョン(金谷)
 - ・50周年記念事業報告 (原川)
 - ・現役支援委員会からの提案(佐藤)
 - C. 平成二十四年度決算報告及び二十五年度予算案承認の件 (林)

〆編集後期〆

稲雲では「ボートに関する話題」、「漕法のこと」など自由投稿を募集しています。その他取り上げて欲しいテーマなどありましたら広報委員会までご連絡ください。
編集委員長 河野壮一(H16年卒業)